

東京女子高等師範學校教授下田次郎氏新著『母

と子』は、同氏の前著『胎教』の姉妹篇として、

近く發刊せられた、愛重すべき好著である。母と

子、書名何ぞ既に有興味なる。而して此の有興味

なる項目を捕へて、之れを最も有興味に記述論述

する處、蓋し著者獨特の擅上であ

る。試みに其の目次を見るのみに

ても、此書の此の書たる趣きは既

にあらはれて居る。一、母の讚美

、二、妊娠と出産、三、母の喜び、

四、母の情(一)五、母の情(二)、六、日本文學に

あらはれたる母、七、西洋文學にあらはれたる母、

八、子の思ひ、九、母の進化、十、愛、十一、母

としての教育、十二、子の養育(一)、十三、子の

養育(二)、十四、子の教育(一)、十五、子の教育

(二)、十六、母の救濟、著者の教育的にして詩人

的なる考察は充分によく發揮せられて居る。此の

種の問題に就て我國の權威たる著者は其の豊富な

る材料を料理して、特に此の小著をなすに多大の

苦心の存したること、思はれる。學問的よりも道話

的に、理的よりも情的に、よく消化せられたる論

述の順序と筆致とは、一般家庭殊に若き母の爲に

伴侶たらんとする此の著の目的を充分に成功せり

といふべきである。六かしいことは良き通俗書を

作ることである。而して此の書は其の上乗なるも

のである。情味が豊かな柔い筆を以て扱はれたこ

の新著は、保育に關する乾燥した理論の砂漠の中

に於て、清水滾々たる綠地にも譬へらるべきであ

る。本誌讀者諸君にも廣く之をすゝめたいと思

ふ。(東京市京橋區實業の日本社發行定價金七十五錢)